



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

共感脳を活性化すれば 心の扉も開かれる

「都会の中の無人島」、こんな言葉がテレビから聞こえてきました。それは、孤独死した人の遺品を引き取る現場を取材したコメンテーターの解説でした。部屋にはワインのビンが沢山散乱し、

ほとんど人付き合いの形跡がありません。遺体は四十八歳の男性で、九州には両親も健在ですが、故郷を出て三十年の間に帰郷したのは数回。二年前失業した後一度電話がかかってきたが、それが最後の会話だったという。

職場の縁が途絶え、血縁も頼らず、隣近所、地域の縁も謝絶する。「挨拶しない」「友だちがいない」「家事もできない」「ないないづくしだ、とか……。それを近頃「無縁社会」というのです。行き倒れなどで、遺体や遺骨の引き取り手のない孤独死者がNHKの調査で、一昨年には三万二千人を数えました。

「一切の有情はみなもて世々生々の父母兄弟なり」(歎異抄・第五条)と親鸞聖人が言われるように、この世の一切の生きとし生けるものは、人間だけでなく動物も植物も皆、無関係なもの一つもない。この真実に背を向けて孤立化する人が増えるのは、人間関係をわづらわしいものとする生活スタイル

が災いしています。その代わりに便利な文明の利器や福祉社会に依存すれば済むものでしょうか？

人は根源的に独りでは生きていけない存在です。失業したり挫折したからと言って人間的価値がない訳ではない。そのまま、あなたにはかけがえなき尊厳性があるのだよ、とお釈迦様は宣言されました。

極端に抑圧された精神的ストレスを和らげ、心の扉を開くには「共感脳を活性化させる」のが一番重要だと最近の脳科学も教えてくれます。その共感脳を活性化させるにはどうしたらよいか？一つは体内時計に合った規則正しい生活のリズムを取り戻すこと、もう一つは感動の涙を流す、というのです。毎朝、日の光を浴びて散歩したり、大きな声でお経を読むのは前者に効果的です。後者に関して言えば、有難いお話を聞いて涙を流したり、家族や寺友と悲しみを分かち合い、共感の涙を流す。時には美しい仏教讃歌を大勢で歌いながら共感脳を振るわせることで、大慈悲の世界の我らだと実感することができます。家族が近くにいなければ、身近な人と声を掛け合います。

☆行事ご案内☆

7月18日(日)夜7時半: 門信徒会例会

- ① 心の病をのりこえる処方箋について解説と座談
- ② 宗祖讃仰作法の練習と「和讃」の解説

♪三重組コーラス♪

☆、6/26(土)夜7時 舞台上でリハーサル、

☆6/27(日) 四日市文化会館「三重組お待ち受け法要」

7/7(水) 名古屋別院音楽祭 9時小杉9時半桜バス
『念仏』黄色楽譜、赤い本「組曲正信偈」コーラス衣装

◇キッズサンガ

※7/3(土)午後4時 新しいお友達を誘ってどうぞ
※毎日夕方5時鐘撞きは誰でもOK 飴・ガム付。年中無休

◇7月3日 三重組十三日講(塩浜 西勝寺)

予告※「永代経」8月21日(土)午後・夜 22日(日)午後、
講師 加藤正人先生(桑名)〈お経開き〉21日午前10時半

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評開設1年11ヶ月目で2万2千回アクセス達成！毎日40から50アクセスご協力に感謝！HPからのメール、コメント大歓迎！

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」(千円)好評発売中。中西智海先生の推薦文も！一縁会テレホン法話の本も同時発売中。



真の共感とは自他の垣根がなくなった「一如」、大慈悲の世界です。無縁社会の間から救われるのは共感する感性を育てることにより実現するのです。近くの人に一声かけよう：我々仏教徒がどこでもできる「無財の施し」ですね。



中西智海先生をお迎えして公開法座
5月30日:感動の法縁で満堂に!

5月30日 中西智海先生をお迎えして四日市善正寺



坊守スケッチ

本物に出会いたい



先日『孤高のメス』という映画を見た。堤真一扮する留学帰りの若き外科医が、地方の古びた市民病院に赴任する。その医者は純粋に患者を救いたいという信念に基づき、事なかれ主義の病院内部を次々に改革していく。当然先輩医師達の反発を食らう。病院改革派の市長が重い肝臓病で突然倒れた。当時としては認められていなかった生体肝移植しか救う道が無い為に、多くの反対を押し切って手術に踏み切る。脳死状態の患者からの肝臓を取り出し、市長の体に移植する。無事手術は成功するが、責任を取って病院を去る。しかしこの医師が残した「患者を救いたい」という純粋な信念が、手伝わ看護師を動かす、病院全体の雰囲気を変え、新しい病院へと生まれ変わる。この医師には名譽欲や野心など無い。時は巡り、医師は田舎の老人病院で働く。当時この医師の元で手術を手伝った看護師は既に亡くなり、その一人息子が新米医師として、この医師の元に赴任する。母の看護師日記から、医師の志の尊さを知り、自分もここで働くことに希望を抱く。この映画のもう一つのテーマが、「人はみんな繋がっている」というのではないか?この映画は、同名の小説が元の実話だそう。この映画を見た私の感想は、「人は目

先の利益や打算だけで動くのではない。止むに止まれぬ気持ち、やらずにおれない心に突き動かされて行動する。無私無欲であれば、必ず人が集まる。たった一人の本気が、周囲の人々を動かし、組織を変えるのだと思う。ところで、私の周囲でもこれと似たことが起こっている。

三重組お待ち受け法要が、四日市文化会館の大ホールで、6月27日、1500人を集めて音楽法要で勤まる。

ステージには、29名の組内全寺院の法中、70名ほどの三重組コーラス、そして雅楽の人々数名が居並ぶ。この練習が6月中旬に文化会館で3回もあった。これだけの僧侶の方々が一同に会して、音楽法要で勤められたのは、前代未聞!三重組コーラスの人々も、「ごえんさん達と一緒にステージ上で歌えるのは幸せ!」と緊張の中にも驚きと喜びが秘められていた。

三重組コーラスは今から8年前にある門徒推進員さんの熱意で誕生。その心に賛同して坊守、仏社、仏婦、門推さんなど60名がお寺の垣根を越えて集った。それに応える形で、全寺院の住職さん達が音楽法要に出勤。この大行事を通じて、経験したことのない感動を共有できることは、意義がある。かつての受身型の法要ではなく、自分

達が作り上げた『参加型の法要』だ。ステージ上だけではなく、ロビーや会場の周辺では、役員さんが役割分担をして、法要が円滑に進むように協力して下さる。会場に仏教讃歌が流れ、一人一人の心の中に『親鸞様の教え』即ち『本物に出会えた』喜びと達成感に満ち溢れた法要になることを願う。

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆受け月に 乗りし金星 燦として 曾祖母百の忌 終え仰ぎけり

☆障碍の 母の命名「慈恩」ちゃん 些と逢わぬ間に 幼稚園とぞ

☆宿の朝「ひいよひいよ」と コールする 南島に棲む 磯白頭が

☆黄昏て ジェット飛び交う 爆音が 耳を劈く 宣野湾の宿

☆大いなる はたらきの中に泳ぎ 安らかに 浄土に向かう

四日市市 I H

☆おぼろ月 屋外演奏の 調べかな

☆カンパ有難う☆

豊住久美夫様・他匿名様お志・切手有難うございました。

☆キッズサンガ・杉の子合唱団

◇7月3日午後4時より。お友達誘って来てね!夕方5時の鐘撞きは毎日。

☆ホットニュース☆

☆6月12日滋賀県草津の門徒推進員研修会に任職出講。坊守その他有志も同行。共に歌い寺友の輪を広げました。

☆6月13日奈良市K寺様仏教文化講座に任職出講。「娘達よ」を坊守マインドリンとプロギタリストF氏の夢の共演

☆任職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発売中!挿絵は門徒の服部雅之氏(定価1260円)を著書割引千円で特別販売)

☆善正寺のホームページ。「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「任職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設1年11ヶ月で2万2千回以上アクセス!

☆6月中旬に3回、四日市文化会館で、コーラスと三重組全寺院法中による合同練習とりハール。親鸞聖人750回大遠忌・三重組お待ち受け音楽法要の機運が高まる。

☆三重組コーラス♪

☆陽光苑7月はフラダンスの方に任せしました。

☆6月27日(日)三重組お待ち受け法要・四日市文化会館・音楽法要、「しんらんさま」念仏チケット千円発売中

☆7月7日(水)名古屋別院音楽祭千円バス9時小杉公会所・9時半桜黄色表紙に『念仏』、組曲『正信偈』赤い本、お茶各自持参、コーラス衣装

※7月31日(土)夜7時半から小杉練習。従来通り毎月最終土曜日夜練習。※今年も11/22京都西本願寺「御堂演奏会」8回目の参加予定

アジサイが雨に洗われて生氣を取り戻しました。うとうと梅雨の季節も草花にとっては恵みの雨。視点を変えれば愚痴が感謝に変わります。核家族が普通の時代に親世代と同居し、おまけに家業として家族が一丸となつて働いているご家族があります。この家族の働きぶりを見た方から次のような話を聞きました。一日の仕事を終えて一足早く夕食準備の為に自宅に戻る女性達(嫁と姑に)一家の長のご主人が「ありがとう、ご苦労さん」と労いの言葉を掛けられました。今時家族にゆれが言い合えるなんて素晴らしい。きつと仕事も上手とくだらうと感心されました。家族と言えども親子間できつく当たれば反発します。優しい言葉で接すれば穏やかな絆が維持できます。政東井義雄先生(教育者)は奥様の足をマッサージされながら「さつた足の裏に「苦労を掛けてすまない」と両手を合わされたそうです。まさしく「拝み合う家族」のお手本でしょう。家族は空気のような存在ですが、デリケートで壊れ易いのです。「ありがとう」「ご苦労さん」「あなたのおかげ」小さな感謝の言葉の積み重ねが良好な絆を築きます。早速「拝み合う家族」を実践してみましよう。6月末は三重组お待ち受け音楽法要で、三重组が一丸となりました。続いて7/7は名古屋別院での音楽祭、寺報もあと一回で(8月号)二回号を迎えます。皆様の協力に感謝します。合掌 平成二十二年七月善正寺坊守拝